

小さな経営革新  
チャレンジ  
支援事業

お客様の「また食べたい、また来たい」のために

Farm おかよし 岡田 芳洋(京丹後市網野町)



岡田さんは、イチゴ摘み取り園の経営安定化を目指し、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用してブルーベリーの導入とウェブサイト開設に取り組みました。

ブルーベリーは、まだ育成中ですが、ウェブサイトの開設以来、問い合わせや申し込みが多く、サイトの予約状況のカレンダーはいつも埋まっています。その中には、海外からのお客さんも1割程度いらっしゃるそうです。

昼はお客様の対応、夜は商品の発送や経理作業が待っています。このほかにも収穫作業や栽培管理に大忙しです。話を聞いていると、いつ休むのか心配になります。伺うと、「本当に忙しいのは5月いっぱいまでで、大丈夫です。」と笑顔で教えてくださいました。岡田さんは今後の目標は「生産したイチゴを厳選して、プレミアム商品として販売したい」と語っていました。



「こだわり」ある有機農業での野菜づくり

SORA農園 大場 亮太・佐代子(京丹後市弥栄町)

大場さんは、有機農業で多品目栽培に取り組んでおられます。露地ではナスやトウガラシ、ビーツ、ニンジンなどを栽培され、ハウスではレタスなどの葉物類を栽培されています。

平成28年度は「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、タバスコとマスタードづくりに取り組まれました。これまでは生鮮野菜の販売が中心でしたが、需要のある加工品の試作に取り組んだことにより、現在営業されている「キコリ谷テラス」や、有機農業をされている農家仲間とともに設立した「タンゴ・オーガニック・ファーマーズマーケット」で販売していく商品の柱となることが期待されます。

メール会員  
募集中!!

おいしいお米づくりのヒントをメールでお知らせします!

丹後米改良協会では、おいしい丹後米づくりのための管理のポイントや病害虫の発生・気象災害対策情報をメールでお知らせしています。(無料。通信料は別途必要)

- ①メールの利用可能な携帯電話やパソコンを用意します。
- ②次のあて先に、空メールを送ってください(右のQRコードでも可)

tangomai@mamail.jp

- ③「ご入会ありがとうございます」の返信メールがきたら、登録成功です。



※登録方法がわからない場合は、丹後農業改良普及センターか、最寄りJAに相談してください。

～皆さんで『特A』を!～

施肥や水管理のほか、稲刈り時期や乾燥・調製、保管に至るまで、細心の注意を払っておいしいお米に育てましょう。

※この広報誌は再生紙を使用しています。

～築いていこう! 男女共同参画～



TANGO  
丹後普及センターだより

第26号

(平成29年8月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府丹後広域振興局農林商工部

丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

丹後普及センター 検索



京 夏ずきん・紫ずきんの産地拡大に向けて

京丹後市久美浜町は丹後管内で最大の京夏ずきん・紫ずきんの産地です。昨年の色彩選別機の導入を機に栽培面積も一昨年を4.6ha上回る13.2haになりました。

普及センターでは、JA等と連携して、栽培講習会の開催、生育中の病害虫発生状況調査、収穫開始時期を判定するための莢肥大状況調査、栽培技術情報の発行などで栽培を支援してきました。また、茶しみの原因となるダイズモザイクウイルスに抵抗性を持つ新品種「紫ずきん3号」の定着に向けた現地試験を行ってきました。

本年は、有利販売を目指してパイプハウスを利用した京夏ずきんの前進栽培実証の取り組みや、定点ほ場を巡回して、病害虫の早期発見と生育に応じた管理技術情報提供を行うことにより、産地を支援していきます。



色彩選別機を使用した調製作業の様子

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～



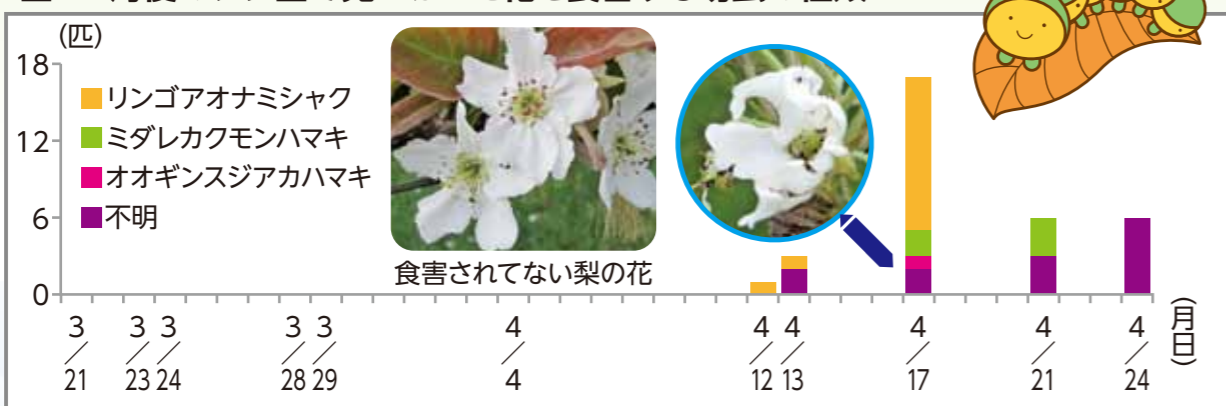
# 丹後のいきもの

丹後地域は様々な果樹が栽培されており、モモやブドウ、ナシなどは大きな産地となっています。本年度、普及センターではナシの花を加害する蛾の調査を行いましたので、調査の中で見つかった蛾について紹介します。

梨の花芽が動き始める3月下旬から花の終わる4月下旬にかけて、丹後地域のナシ園にて食害被害の調査を行いました。調査では、花を食害しているイモムシ（蛾の幼虫）を、普及センターで成虫になるまで飼育し、蛾の種類を判別しました。

調査開始後、4月12日以前は幼虫が見られませんでした。4月中旬頃にリンゴアオナミシャク（写真①）が見られ始め、次にミダレカクモンハマキ（写真②）とオオギンスジアカハマキ（写真③）の幼虫が花を食害しており、丹後地域のナシの花を加害していた虫は、今回最も採取数の多かったリンゴアオナミシャクの幼虫が主となる害虫であると考えられます。【図1参照】

図1 丹後のナシ園で見つかった花を食害する幼虫の種類



①リンゴアオナミシャク  
(シャクガ科)

樹幹の粗面にて卵で越冬。ナシのつぼみがふくらむ頃にふ化して花芽に潜り込み、花を綴って食害後に、若葉も食害。

②ミダレカクモンハマキ  
(ハマキガ科)

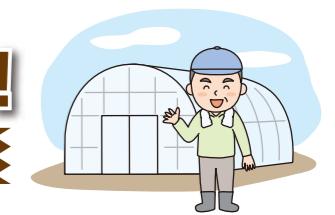
枝幹にて卵で越冬。花芽に潜り込み花を綴って花芽を食害後に、幼果や新梢も食害。

③オオギンスジアカハマキ  
(ハマキガ科)

粗皮下にて幼虫で越冬。つぼみがふくらむ頃花芽へ移動し食害。展葉後は葉を食害。

## 大切なパイプハウスを守るために!

(強風・雪害対策)



### (1) 気象情報を入手する

- ・テレビ・ラジオ・ネット等の天気予報で、気象情報を入手し、事前準備をしっかりと行いましょう。
- ・府の防災メールでも気象情報を配信しています。[anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp](mailto:anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp) に空メールを送り、返信メールに記載のURLで、必要な設定をしてください。
- ・強風や大雪の最中に作業したり出歩くのは危険です。人命優先で、事前にできる対策をしておきましょう。

### (2) 日頃の点検

- ・被覆資材の点検（破れや穴を早めに補修。資材のたるみを直す。可能な場合、資材を事前に外す）
- ・ビニペット（緩み、外れ、腐食）の点検、ハウスバンドの締め直し、アンカーの点検。
- ・出入り口引き戸の点検（がたつきや隙間がないように整備）（強風時はひも等で結んで固定）。
- ・アーチパイプの補強（腐食部の交換・補強）。ハウス周辺の片付け、排水溝の点検等。

### (3) ハウスの構造を強くする

タイバー(逆T型) 風 雪

横風や積雪によるハウスの変形を防ぐ

クロス(X型) 風 雪

横風や積雪によるハウスの変形を防ぐ  
(タイバーよりも効果が高い)

中柱による補強 雪

積雪によるM字型陥没を防ぐ  
(中柱先端と主管は必ず固定)  
(根元にブロック・板を敷く)

筋交いの設置 風 雪

妻面からの風に強くなり、奥行方向のハウス変形を防ぐ  
(筋交い直管とアーチパイプは、部品等で固定)  
(下端部は、必ず地面に30cm以上埋め込む)

引っ張り資材、つかえ棒 風

風上側の肩部を補強することで、強風による軒の変形や浮き上がりを防ぐ

妻面への防風ネット 風

妻面に近い部分2mほどに、カンレイシャを張ることで、被覆資材が破れにくくなる  
(積雪時には雪が引っかかるため、冬季は必ず外しておくこと)

- \*本内容は、次の資料から引用・抜粋して作成しました。(全てインターネット上で公開されています)
- 「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」(日本施設園芸協会、H26)
  - 「施設園芸における強風対策技術導入マニュアル」(静岡県、H26)
  - 「施設園芸用ハウス 自然災害対策マニュアル」(JA 全農生産資材部)
  - 「強風に対するパイプハウスの被害対策技術」(鳥取県農業気象協議会・鳥取県農林総合研究所企画総務課、H25)
  - 「パイプハウスの雪害対策」(栃木県農政部経営技術課技術指導班、H26)